

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.104 - 2017年8月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

今

度の第148回宣教派遣の会員たちに、私たちは引き続き、愛情をこめた祈りをもって同伴します。ヴァルドッコでは、宣教師たちを迎えそして送り出すために、あらゆる準備が進んでいます。今回の派遣に関してとても興味深いのは、二つの管区、一つはヨーロッパ、もう一つはアフリカの管区が、二つのことを同時に行うということです。宣教師を送り出し、また受け入れます。スペインのキリスト者の扶け聖マリア管区SMXは、カタロニア出身の司祭を送り出し、ヨーロッパ以外の出身で実地課程にある宣教師二人を受け入れます。アフリカでは、新しい準管区が生まれました：アフリカ・コンゴ・コンゴACC(キンシャサ・ブラツァヴィル)です。この準管区は誕生すると同時に二人の宣教師を生みました。二人とも実地課程にあり、一人はスペインへ、もう一人はアンティエユ諸島へ向かいます。そして二人のベトナム人実地課程生がこの準管区に迎えられます。神学生と修道士です。

改訂された「サレジオ宣教マニュアル」には次のようにあります。「宣教はもはや「宣教地」に向かう一方向の運動ではありません。そうではなく、多方向的な運動なのです。したがって、各地方教会は、宣教師を送りだし、また同時に受け入れるのです。同様に、サレジオ会の各管区は、人員的に、経済的に、豊かであっても、貧しくても、サレジオ会全体の宣教の取り組みに共同で責任を負います。したがって、すべての管区は送り出し、そして受け入れるのです!」

J. Basanes

宣教顧問

ギジェルモ・バサニェス神父

教

会の宣教促進。「信仰は、人に伝えることによって強められます!」そこで宣教促進は、神の民を教育し、知識を持たせることを目指します。宣教師の召命を促進し、福音宣教のための協力を引き出しながら、キリスト者一人ひとりのうちに、イエスを知らせ、福音を告げる情熱を生き生きと保たせるためです。効果的な宣教促進は、イエスとイエスの民への愛を一人ひとりが徐々に深めるように助けます。これが、「福音宣教の甘美な、慰め深い喜び」であり、「弟子たちの共同体の生活を満たす」もの、「自分の安寧の中に引きこもることなく、人間的苦しみの抑圧的状況においてキリストに仕え、人類への奉仕のために自分を差し出す」エネルギーを発揮させるものです。

サレジオの宣教促進。ドン・ボスコのカリスマの体験の光に照らし、私たちは今、サレジオの宣教促進の目的を定義することができます。それは祝いの行事やその時々取り組みに限定されません。むしろ、「意識を高めさせ、管区共同体、支部共同体を活気づけるたゆみない歩みであり、より深い宣教意識、内容と方法論において刷新された奉仕、そして信頼に足るものであるために、共同体の内と外、両方で生きられるべき新たな取り組みの姿勢を目指すものです。」この歩みは、宣教促進のための管区計画において具体化されます。

第一の目標：宣教促進には、相互依存的な、補い合う二つの目的があります。何よりも、すべてのサレジオ会員一人ひとりのうちに、また教育司牧共同体のうちに、宣教の熱意を生き生きと保たせること、そして宣教の文化を促進することを目指します。このことは、青少年司牧全体の中で宣教促進が本質的な要素となるような、有機的な宣教司牧を意味します。それによって、サレジオ教育司牧計画も、またさまざまな司牧分野、宣教の使命の諸部門も、実り豊かなものになるのです。宣教促進は、サレジオ会員の初期養成、生涯養成とも関わり、サレジオ家族のメンバーも、それぞれの固有のカリスマにしたがってこれに参加します。

第二の目的：宣教の熱意によって火がつき、すべてのサレジオ会員のうちに「恒常的な回心にかかれた姿勢」が形づくられ、また宣教師となるよう呼ばれる主の呼びかけを識別するよう心を開かせます。したがって、サレジオの宣教促進の第二の目的は、第一の目的から生まれます：宣教師の召命 - ad exteros 国を後にし、ad gentes すべての人へ、ad vitam 生涯をかけて - の識別ができるようにサレジオ会員を助けることです。



教会の宣教促進

「あなたは、多くの民族、国民、言葉の違う民、また、王たちについて、再び預言しなければならない」

自分に修道召命があると気づくずっと前に、ある聖書の言葉（黙示録10・11）に打たれたのおぼえています。この節の言葉は、文字通りに取るとき宣教的な響きを持っていますが、私が無作為に開いた箇所を読むために何度か聖書を手に取ったとき、繰り返し戻ってきました。その意味は理解できませんでしたが、この言葉は私の心に根を下ろし、私は決して忘れませんでした。

子どもの頃、私は映画を見るのが大好きでした。サレジオ会に入ると、残念なことに、志願院の図書室はANS制作のビデオでいっぱい、そのほとんどは宣教地を紹介するものでした。私はそのビデオを見ました。見たくて見たのではなく、ほかに見るものがなかったからです。驚いたことに、それらのビデオは私の心をとらえるようになり、少なくとも週に2本見ようとするほどでした。より明確な招きが、当時、地域顧問だったバサニエス神父からありました。バサニエス神父が修練準備期の支部を訪問したときのことです。その日、宣教師の道に呼ばれているかもしれないと、私は初めて強く感じました。

私たちの管区は若い管区なので、多くの人が私に言いました。「タンザニアでまだ宣教師が必要なのに、なぜ宣教師になるの？」私が確信しているのは、修道者になることも、宣教師になることも、私が自分を呼んだわけではということ。私を呼んでくださった方はなぜ呼んだかを、私のための計画を、私の前途にある宣教の使命をわかっておられる。私が始めた使命ではないのですから主はご自分の計画のために、ご自身で計られるでしょう。メキシコに私を派遣されたのなら、メキシコに私がいることを望まれたということで、タンザニアのために必要とされる人は、きっとご自分で見つけられるでしょう。

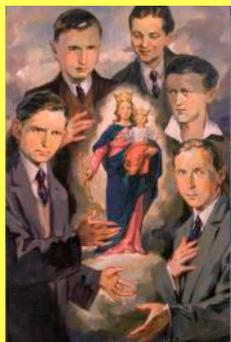
メキシコの宣教師としての私の最高の喜びは、この管区でまた一般的に人々の中で体験する温かい歓迎の雰囲気です。私は実地課程生として、子どもや若者が人口の多数を構成する場所で働いています。そのため、サレジオ・ミッションのただ中に完全に浸っていると感じています。

私にとって最大の挑戦は、自分の国の文化とは大きく違う文化です。私が抛って立ち、大切にしてきた価値は問われ、適応するのは楽ではありません。私たちは、暴力に満ちた地区にいます。暴力の根にあるのは、通りで行き交う麻薬、崩壊した家庭、早すぎる結婚、依存症に陥った、人生の展望のない若者たちです。私が関わる若者の多くはこれらの影響を受けています。それも当然です、若者たちは環境の子なのですから。

宣教師になることを考えている若いサレジオ会員には、識別がとても大切だと言いたいと思います。宣教地を訪れる機会があるなら、最終的な決断をする前に、どうぞ行ってみてください。養成支部で提供される人間的養成を真剣に受けとめてください。新しい文化と余裕をもって関わるために必要です。何よりも、たくましい魂のために、個人の祈りは欠かすことのできないものです。



タンザニア出身、メキシコの宣教師 デイヴィッド・コンバ神学生



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ビエルルイジ・カメローニ神父

ボズナニ（ポーランド）のサレジオ会オラトリオの福者、青年殉教者たち。彼らは1942年8月24日の自分たちの殉教について、家族に書き送っています：「愛するお父さん、お母さん、兄弟姉妹！」とフランシシェク・ケシーの手紙は始まっています。「皆にいとまごいする時が来ました。それは8月24日です。キリスト者の扶け聖マリアの日です。（…）良き神は私をご自分の元に取り上げてくださいます。これほど若くこの世を去るけれども、どうか泣かないでください。今、恵みの状態にあり、後になっては自分の約束に忠実に留まれるかどうか私にはわからないのです。（…）天国に行きます。さようなら。天国に行ったら、皆のために神に祈ります…時には私のためにも祈ってください。（…）もう行きます。」

「愛する父さん、母さん！ ママ、バッポ、マリア、ヘンリク！」エドゥアルド・クリニクは親族に語りかけます。「神のご計画はすばらしい、私たちはそれを受け入れます、なぜなら、すべては私たちの靈魂の善益のためだからです。（…）マリアは最後まで私のお母さんでいてくれます。ママ、今から私がいなくなったら、イエスをいただいでください。（…）愛するみんな、私のために絶望しないで、泣かないで、私はすでにイエス、マリアと一緒にいるのですから……」



サレジオ会の宣教の意向

オセアニアのサレジオ会員のために

自らの召命のすばらしさを、若者たちと分かち合えますように。

オセアニアのサレジオ会員がオラトリオの精神をもって、美術、音楽、演劇、物語を通して、自らの信仰を表現し分かち合うことができますように。ドン・ボスコの子らがいるオセアニアの国々それぞれに、多様な文化のモザイクを見ることができます。その各々の状況に生きる若者たちは、自分たちの共同体の懐に見いだされる善いもの、美しいもの、すべてを知り、愛し、育む力において成長しなければなりません。

